

様式【学校評価資料】 山手小学校

学校経営目標	具体的計画	令和4年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		学校関係者評価
			達成状況	評価	達成状況	評価	
(心豊かな 子ども の育成)	①「だれもが行きたくなる学校づくり」の実践や「特別な教科・道徳」の授業を通して、思いやりの心や自己有用感を育成し、安心して学校生活を送れるようにする。	・学校が楽しいという回答が94%以上、相手を思いやった言動がみられるという回答が93%以上である。(児童・保護者・教職員アンケート) ・友達に優しくされているという回答が80%以上である。(児童アンケート)	楽しい 児童:94.4% 保護者:91.8% 教職員:100% やさしい 児童:94.6%	B	楽しい 児童:91.6% 保護者:94.8% 教職員:100% やさしい 児童:91.9%	B	基準は概ね達成されており一定の成果があったとして自己評価は妥当である。学校では、「一人一人の児童を認め、大切に指導していることがわかる。今後ともきついった姿勢を示していただき、保護者と信頼関係を構築しながら児童への指導を継続して欲しい。昨年度と同様に学校が「楽しくない」と回答している児童への個別相談に応じる体制を整え、児童の「楽しい」が100%になるよう目指してほしい。 改善策の前向きな変容や成長を認め、紹介していくという取組みは、人間関係や周囲の印象が固定化されやすい中で、児童の前向きな変容・成長を認めてくれるという点に期待ができる。一方で、個人が特定できるエピソードの取り扱いには十分に注意してほしい。 「きらきら言葉」「ちくちく言葉」を考える取組みを通して、児童は自身の言葉の違いや、人に対する言葉の大切さを学び、「思いやり」の心が醸成できていると思う。互いに「優しくされている」と感じていることは、児童にとっては安全で安心な学校生活を送る基礎となるので非常に重要な内容である。
	②すきだ山手小学校運動を通して、礼儀正しい児童を育成する。	・挨拶や返事がよくできるという回答が児童85%以上、保護者72%以上である。(児童・保護者アンケート) ・履き物をそろえるという回答が児童88%以上、保護者55%以上である。(児童・保護者アンケート)	挨拶・返事 児童:85.9% 保護者:74.5% 履き物 児童:87.9% 保護者:53%	B	挨拶・返事 児童:83.2% 保護者:75.5% 履き物 児童:89.5% 保護者:53%	B	基準は概ね達成されており、さらなる改善点が検討されることから自己評価は妥当である。人権意識を高める取組みや人間関係に対する児童への指導は十分にできていると思う。保護者の理解は得られつつあると思うが、保護者は児童を通じて情報によるところが多く、学校での取組みを正しく掴み取れていない部分もあるので、教職員から保護者への発信を今後も引き続き行ってほしい。 学校の様子は学校便り等から判断できるものが多い中で、保護者にとっては人権に配慮した対応をしているのかについてわからないとの回答が多く、この点に関してアンケートの問いの変更を行う対処をした点は評価したい。 最後に、今年度はイベントや企画、交流等に制限が少なくなっている反面、後半の学級評議の増加の影響か、心の余裕が児童・生徒ともに少なくなっていることに懸念がある。学校と家庭で連携をはかり、子どもとの醸成を行ってほしい。
	③授業改善を図り、基礎学力の定着と、適切に表現できる児童の育成を目指す。	・「授業で学んだことがよく分かる」という回答が80%以上である。(児童アンケート) ・「お子さんは、学校での学習内容を理解している」という回答が80%以上である。(保護者アンケート) ・「国語科・算数科の単元テストにおいて、正答率が80%以上である」という回答が85%以上である。(教職員アンケート)	児童:94.6% 保護者:84.4% 教職員:85%	A	児童:90.4% 保護者:83.6% 教職員:100%	A	「すきだ山手小学校」については、あいさつ、返事、履物、掃除等、生活習慣や人間関係に関する重要な事項が盛り込まれており、概ね基準が達成されていることから、自己評価は妥当である。あいさつについては、対保護者では児童が消極的になりがちであり、児童同士でしっかりとあいさつを交わっていくことを盛り上げることも大切ではないかと。また、家庭内での「いただきます」「たのしかったです」などのあいさつができていないことがあるかもしれない。家庭環境によっては、家庭内でのあいさつの機会が少ない児童もあると思うが、あいさつの意義・素直になさへについての指導を引き続きお願いしたい。あいさつのもたらす効果について認識してもらい、「いつでもどこでもだれとでも」あいさつができるようになってもらいたい。家庭・地域・学校で同様のあいさつができるように、大人が児童に対してあいさつを率先して行うことを今後も続けていく必要がある。掃除や履物については、「学校でも家でも」という意識の醸成を引き続きおこなってほしい。 「心プロジェクト」では、行動面を基準として評価されたが、「心」という情緒や認知について、「なぜその行動するのか」という根本を児童に伝えようとする学校の姿勢を継続して行ってもらいたい。
(二確かな ブローグ の育成)	④ICTやユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを意識する。	・「自分の考えや思いをわかりやすく話したり、書いたりできるようにできている」という回答が80%以上である。(児童・保護者・教職員アンケート)	児童:87.4% 保護者:76.2% 教職員:78.3%	B	児童:86.9% 保護者:72.2% 教職員:100%	B	基礎学力の定着をしており効果を挙げているので自己評価は妥当である。基礎学力の向上が図られていることは教職員の努力の賜物である。今後各々の児童のニーズを意識して、児童理解に基づいた授業計画・実践・改善を行ってほしい。「あえて」とふり返りがけがけられたことで、児童は学びへの気づきやすくなり、改善策にも「学びを自覚したり、できたこと実感できる」とことは是非、取り組んでほしい。児童の実態に合わせて、学びに向かう姿勢の醸成に取り組んでほしい。
	⑤ICTやユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを意識する。	・「学校で、進んでパソコンを使って学んでいる」という回答が85%以上である。(児童アンケート) ・「一人一台のパソコンを使って、児童の学んでいる姿勢を育てている」という回答が85%以上である。(教職員アンケート) ・「視覚的支援、感覚を使った活動、半具体物の活用等ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善に取り組んだ」という回答が95%以上である。(教職員アンケート)	児童:93.4% 教職員:86.9% 教職員:100%	A	児童:91.9% 教職員:100% 教職員:100%	A	一人1台端末を用いて児童の学ぶ姿勢を育て、視覚的にもユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を実施していることから、自己評価は妥当である。今後も、日々の授業を積み重ね、ICTを活用した授業展開を進めたいと考えている。昨年と比較して進んでパソコンを使っていることが増えてきている児童が増えていることは、教員の指導の賜物ではないかと。今年度でパソコンのスキルや授業の取組に差が出ないよう、情報交換を行い、児童に対する配慮も行っていきたい。パソコンを利用した授業では、児童が学習教材の一つとして活用している場面がうかがえる。視覚的にユニバーサルデザインを取り入れた授業については今後も工夫をしながら導入してほしい。

様式【学校評価資料】

山手小学校

学校経営目標	具体的計画	令和4年度の達成基準	自己評価（中間）			自己評価（最終）			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
	⑤家庭学習の定着と、児童の発達段階に応じた取組をしていく。	・「家庭学習に（10×学年＋10分）以上に取り組んでいる」という回答が、保護者70％、児童80％以上である。（児童・保護者アンケート）	児童：80.5％ 保護者：72.5％	A	・週末課題等で、新聞記事を読む活動や、学力を向上のためのプリントに取り組ませていく。 ・自主勉強の内容を充実させるための取組をメディアコントロール週間に合わせ、3年生以上が学年単位で行う。	児童：82.2％ 保護者：71.3％	A	・週末には、学年ごとに日記や自主勉強等、課題を増やし、学習時間が確保できるよう、取り組んでいる。3年生以上が学年単位で自主勉強の内容を充実させる取組を行ったことで、内容の工夫が見られている。引き続き、花丸ノートの掲示をし、啓発していきたい。	家庭学習の取組みについては児童が行っていると認識しており、自己評価は妥当である。特に、花丸ノートの掲示により、児童の意欲を盛り上げ、やる気・自主性を育てている点は継続して行ってほしい。 家庭学習の定着は、家庭環境や保護者の考え方により難しい場面もある。特に、自主勉強で何をするのかが家庭によって考え方が異なるが、取組み事例や花丸ノートの紹介は、各児童にとって学びのヒントとなると期待する。学校では様々な工夫や仕掛けをして児童の学力の向上に努められている。今後は、時間にだけ焦点を当てるのではなく、質的にも身につく学習となるように指導を期待する。一方で、課題が増えすぎることのないよう調整をお願いしたい。